

# 音楽科授業案

日時 平成25年5月30日(木) 3校時

生徒 3年C組 男子18名 女子19名 計37名

授業場 音楽室

授業者 齊藤貴文

1 題材名 「混声合唱の喜び」混声三部合唱曲『Heart&Heart』 桜田直子作詞・作曲

## 2 題材の目標

楽曲「Heart&Heart」の歌詞の内容や曲想に関心を持ち、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら曲にふさわしい音楽表現を創意工夫し、歌うことができる。

## 3 題材について

### (1) 題材観

私たちの日常において音楽活動といえば、そのほとんどが「聴くこと」いわゆる「鑑賞」活動である。自然の音だけではなく、生活環境の音・音楽を聴く活動が多く、表現する活動を日常から行っている人は多くはない。しかし、音楽の醍醐味は表現活動にあると考える。「聴いて」自分が感じたもの・ことを音や音楽に乗せて相手に伝えるところにこそ表現活動のよさ(価値)があり、生徒に感得させていきたいことの一つである。

本題材「Heart&Heart」は桜田直子作詞・作曲による混声3部合唱曲である。「一番逢いたい人は誰?」「一番伝えたいことは何?」という関心を引きやすい歌詞も非常に生徒の気持ちを高めるが、楽曲として他の楽曲にも見られるリズムや強弱の変化だけではなく、冒頭のコーラル、声部の掛け合い、拍子の変化、ア・カペラのなど、第3学年にふさわしい充実した音楽内容の作品である。

本題材では、歌詞の意味を深く理解するところから始まり、特に強弱・リズムの変化によってもたらされる音楽の変化を実感させていきたい。しかし、佐藤も楽譜について、「音楽を伝達可能にするシンボルである楽譜や記譜法だけでは、音楽の本質を捉えることができない」というように、よりよい表現をするためには、楽譜に書かれていないところを「聴き」音楽の隠し味を味わうというねらいがある。

本題材を通して、ただ歌うだけではなく、「よく(美しく)」歌うためには、発音や強弱、リズムを意識することが大切なのはもちろんだが、モデル演奏を「聴く」ことによって、「うつろいゆく<sup>さま</sup>態」を表現することがよりよい演奏につながることを、音楽表現の楽しさのひとつであることを気づかせたい。

## 研究の視点

### ①音楽科における題材構成・授業展開の手だて

A

#### 自分たちの演奏とモデル演奏を比較聴取し、改善・修正点を吟味し、自らを批評する過程を組み込む

表現活動においてこれまで一時間においての、あるいは題材を通じた成果として、自分たちの演奏を「聴く」活動はあっても、モデル演奏と比較する活動を一単位時間において行うことは無かった。モデルという一つの「音楽美」が絶対的な存在になることを避けること、他との比較ではなく、自分たちの活動の成果を振り返ることに重点を置いていたためである。しかし、ただ演奏するだけではなく、よく演奏するにあたり、も出る演奏を聴いてそのよさについて吟味すること、自己の演奏を振り返り改善することは、自らの演奏技術向上のためにも必要なのではないかと考えた。

本時において、モデル演奏との比較聴取を通して、改善点及び修正点を「聴く」という主体的な行為によ

って音楽表現のよさのポイントを探り、自己の演奏を振り返り、より主体的に創意工夫して音楽表現を追求するための手だてとした。

②音楽科における生徒の認知に働きかける手だて **B**

音楽の要素の焦点化・教科語彙の記号化

教科主題（仮）の「感覚の言語化」を行うために、教科語彙を記号化し、楽譜に記入させることで、表現する場所や内容を意識させるための手だてとした。

本時では、特に発音と強弱に焦点化し、楽譜への記号の付け方、書き方を示し、楽譜に記述させることで表現活動の意識を深めることにつなげていく。さらに「聴く」活動を通して、楽譜には書かれていない部分の表現を聴きとり、記号、及び言葉で楽譜に記入させることを手だてとした。

4 評価規準

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
ア 歌詞の内容や曲想に応じた発声、声部の役割や全体の響きなどに関心を持ち、それらを生かし音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	ア 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想を感じ取り、言葉の特性を生かし、声部の役割や音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	ア 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌うことができる。

5 題材指導計画（4時間計画）

	学習事項	主な学習活動・手だて	評価				
			関	感	技		
1	○『Heart&Heart』と出会い ・歌詞の内容と音取り ア：拍子，音色	○『Heart&Heart』の歌詞の意味と作曲者の意図を知り、言葉のリズムや発音するポイントを意識しながら創意工夫して歌うに意欲的に取り組む。	教科語彙の焦点化・可視化 <b>B</b>	ア			
2	○『Heart&Heart』の曲想の変化を感じ取ろう。 ・発音・強弱の変化 ア：旋律，リズム	○演奏における強弱の効果を感じ取る学習に主体的に取り組む、強弱を意識して演奏表現をする。			ア		
3 本 時	○『Heart&Heart』のよさを深めよう。 ア：強弱，リズム	○前時の学習を生かして『Heart&Heart』の音楽表現を創意工夫する。					
		<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width:50%;">統制群</th> <th style="width:50%;">実験群</th> </tr> <tr> <td>後半の演奏を模範演奏と楽譜から演奏表現を試行錯誤して音楽表現を創意工夫する。</td> <td>後半の演奏を模範演奏と自分たちの演奏を比較聴取し、吟味して音楽表現を創意工夫する。 <b>A</b></td> </tr> </table>		統制群	実験群	後半の演奏を模範演奏と楽譜から演奏表現を試行錯誤して音楽表現を創意工夫する。	後半の演奏を模範演奏と自分たちの演奏を比較聴取し、吟味して音楽表現を創意工夫する。 <b>A</b>
統制群	実験群						
後半の演奏を模範演奏と楽譜から演奏表現を試行錯誤して音楽表現を創意工夫する。	後半の演奏を模範演奏と自分たちの演奏を比較聴取し、吟味して音楽表現を創意工夫する。 <b>A</b>						
4	○曲にふさわしい表現で『Heart&Heart』を合唱しよう。 ア：旋律，強弱，リズム	○演奏における強弱の効果を感じ取る学習に主体的に取り組む、強弱を意識して演奏表現をする。		ア		ア	


## 6 本時案 実験群

### (1) 本時の目標

モデル演奏と自分たちの演奏の比較聴取を通して、音楽表現の修正・改善点を考える活動に意欲的に取り組み、自らの表現に生かし、よりよい合唱表現をするために創意工夫することができる。

### (2) 本時の展開 (3/4)

本時の展開 (○…発問, △…補助発問, □…指示, 説明)

主な学習活動 (下位目標)	教師の働きかけ・ <b>手だて</b>	【評価方法】・備考
1. 姿勢や声の出し方に気をつけて歌うことができる	□姿勢・口の形・声の方向を意識して <b>Heart&amp;Heart</b> を歌いましょう。	・クリップボード ・楽譜 <b>【発表】</b>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     モデル演奏と自分たちの演奏を聴き比べて改善点を探ろう                     <span style="float: right;"><b>聴きとり批評する手だて</b></span> </div>		
2. モデル演奏を聴いてよりよい演奏するための表現の工夫を考え、楽譜に記入することができる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">  </div>	○「いちばん会いたい～最後」の部分をよりよく歌うために発音・強弱はどこをどのように気をつけたらいいのだろうか。 □自分たちの演奏とモデル演奏を聴き比べて改善・修正点を楽譜に書き込みましょう。 △モデル演奏を聴いて楽譜に書いていない、書いている以上のことを表現している場所はないだろうか。 △強弱の変化が特に大きい場所は △発音が特に強調されている場所は	発音：○ <small>子音・母音</small> 音の伸び：→…黒 強弱：◀▶ その他：特徴的な部分は破線や記号、言葉などで記入 <b>教科語彙を焦点化・可視化手だて</b> ・WS 配布 ・「いちばん～」の自分たちの演奏→モデル <b>学習形態</b> 個人【観察・記述】
3. Grに分かれ、交流し、表現の改善点を確認することができる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         ①各リーダー中心に聴きとりが少ない人から発表                          ②各自のWSに書きとめる                          ③再度聴き、吟味する・・・<b>聴きとり批評する手だて</b>                          ④パートごとにリーダーが集まりGrごとの共通点を拡大譜に書き込む。                     </div>	□Grごとに内容を交流し、共通項を拡大譜にまとめましょう。	<b>学習形態</b> Gr→パート 3人の12Gr→3パート <b>【観察・記述】</b>
4. 表現の改善するポイントを意識して合唱することができる。 5. 全体合唱を行い、再度比較聴取を通し改善点を書き込むことができる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         ・強弱の幅が少ない                          ・はっきり聞こえない部分がある                          ・リズムがはっきりしない                          ・もっと強く言ったほうがいいと思う                     </div>	□ポイントを意識して合唱練習をしましょう。 ○もう一度モデル演奏と自分たちの演奏を聴き比べて、改善が必要なところはどこだろう。… <b>聴きとり批評する手だて</b> △強弱の変化・発音で注意を必要とする部分はないだろうか。 △どうしてそう思うのだろう	<b>学習形態</b> ・全体【観察・発表】
6. 本時のまとめの合唱を行い、本時の録音を聴きながらWSに本時の感想を書くことができる。	□本時の成果を聴きながらWSに感想を書きましょう。	<b>学習形態</b> ・個人【観察・記述】